

の陳清野の封鎖に出るであらうと見てゐる。

柏林在住の一支那人よりの記事としてデイリーニュース紙は松岡外相が柏林訪問の報告として「支」は獨逸の戦争計畫に對する日本の支持が尠いと不滿の意を示したと傳へてゐる。

△前同六月二十六日支那語放送

（華府二十四日發）消息通の意見に依れば若し獨逸が攻勢となれば日本は或は近きうちに進入するであらう獨逸が蘇聯との戦争に勝利する以前日本は何等の態度を發表しないか、同時に日本の蘭印進攻の危機は全部消滅するであらうと。

◎英大使、軍事使節モスクワ到着

△モスクワ六月二十八日

英大使モスコーに歸任、同時に軍事使節、經濟使節一行もモスコーに入京した。

◎蘭印、對日再會商を拒絶

△重慶六月二十五日支那語放送

（バタビヤ二十三日合衆電）蘭印當局は獨蘇の戦争を評論して云ふ蘭印は必ずしも願願しないが蘭印の貨物は浦鹽斯德から獨逸に運ばれて居た、獨蘇戦争の爲日本への物資如何の本蘭印談判を又開くやと問ふば蘭印當局は評論を拒絶した。

秘

外國宣傳情報 第四十五號

昭・一六七二情報局

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的なる報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎獨ソ戦を繞る日本の行動觀測を主脈とする抗日紙都の論調

抗日紙都は例外なく日本が絶對絶望の窮地に至れるものとなし對重慶影響の有利説と對ソ同情の争陣を張りあるが未だ重慶の反響を入れず其態度不明のため慎重の態度を持し各電の消息を公平に彙録して概ね中立的なるが日本は條約の間に板挟となり之が抗反強化と英米の壓迫加重にあり北進南行も政行し得ず結局は自己に有利な機會主義的態度を持して實利の獲得を狙ふべしと彙約せられる。大公報中央日報等に現はれたる新論は大體重慶の方向を指しあるべしとの判断は窺知し得るか「日本が東部國境より攻撃するに備へよ」との對ソ警告が主要點である。中美日報は「日本窮迫」を主流とし正言報は「英米ソ支の包

圖下に日本孤立となり南進も頓挫すべく更に北進望むなく、支那は愈々好機來れる」の論説を編輯方針として完全なる援ソに傾けり名紙論調指摘すれば次の如く

△中美日報 六月二十三日

極東に及ばず影響を考案して見るに日本の今後の進路は即ち(1)道義上獨伊に聯合、對ソ戰遂行の路(2)北顧の憂なく直ちに南進の路(3)日ソ中立條約を聲明し寂然不動の路以上の三進路を指揃し更にドイツの形勢如何に依つては盟約の廢棄か對ソ反擊か或ひは對英米緩和策よりする蘭印の獲得かに出づるであらう「歐米新秩序」は已にソ、英、米に依つて制壓せられんとしてゐる。現在日本は孤立無縁である、一舉「東亞新秩序」の打破を敢行するならば短時間にして壊滅可能であることを吾人は特に英米に警告する。

△大公報 六月二十三日

獨逸と交戦せるソ聯は日本が東方の敵なるを認むべきなり。モスクワが東方前線に於ける日本の攻堅に注意し準備すべきを希望す。即ち獨逸は獨ソ中立條約を破棄せり。日本何故に日ソ中立條約を破棄せざる事あらんや、日本がソ聯東境を攻堅し獨逸を援助すべき事なるを確信す。

△正言報 六月二十三日

日本は獨ソに對し條約國である。故に日本は獨ソに直接の關係がある。獨ソ開戦と同時に伊太利及土耳其は各々其態度を表明したるに不遑日本は未だ彷徨し東京の正式發表は「無期延期」となつた。英米ソ聯合し對獨反攻をせば當然日本は伊太利と一如對獨援助のため北進と南進を同時に敢行するであらうが、乍然日本の国力よりして同時は勿論其の何れの一途をも決定し得ない現状にある假りに日本が北進せんか、遠に英米の經濟封鎖に處つて崩壊するであらう。獨ソ開戦は日本を外交的にも經濟的に孤立せしめたが支那は寧ろ英米ソと同一戦線上に在り且つ國共の錯誤は却つて同一反侵略の使命に努力するに至つた。支那は目下最有利な地位に在る。一舉に對日大規模主動攻勢を發動すべし。

△正言報 六月二十三日

英米蘇の密切なる合作によつて其の最も不幸なる直接の犠牲となるものに獨逸及日本であり斯る局勢下に於ける日本前途の運命は既に決定してゐることも云ひ得べし。支、英、米、蘇の包圍下に置かれたる日本は東西南北何れも山々を得るやドイツの斡旋により松岡はモスクワに中立協定を締結せる際、獨、蘇は開戦し恰かも足下へ爆彈を受けたる如し、支那が不變の政策を以て悠然と對處しあると同日の論にあらずと、日本が獨を助け蘇を攻め得ないことは樞軸より日本は遂に見棄てられ其時英米を顧みるも敵性の對立にして又々孤

立に陥り南進政策も一時見合すの外はなし。日本は南進も不可、北進もならず、支那事變の結末も愈々困難なる情勢にあり、今日日本は憂慮煩悶し暫時傍觀態度を採ることに決定せり。

△申報 六月二十三日

上海消息。日本は日ソ中立條約に依り中立嚴守を要し故に態度を決し得ず、獨ソ兩國は勢力伸伸するを以て勝敗は逆賭する能はず、且つソ聯が參戰を餘義なくされてより英米も同盟を結成せんとする情勢を生じ英米兩國は極東に尙充分なる兵力を留め日本の太平洋に於ける侵略行動を制止しあるを以て日本の進退は頗る苦境にあり

△神州日報 六月二十三日

獨ソ戰爭は日本の獨伊、ソ聯合を以てする對英米抗壓の夢想を完全に破砕して仕舞つた。松岡外相の訪歐によつて格外な日ソ中立條約の收穫はあつたが其時已に獨ソ間は暗中磨擦を生じてゐたのだ

日本は兩國に對して均しく條約關係に立つものであり恐らく兩國に對し中立を採取するであらうとは餘り良心的な見解であらう。日獨間には別に密約の存するであらうとは疑ふ餘地がない。假令否らざるもヒットラーは必ずや日本をして北進、ソ聯の背後に迫り又は南進、英米を騷擾するの何れか一途に出づべく使喚するであらう。故に日本に依るソ聯の

△大公報 六月二十四日

危も英米の憂も皆援支を増強し支那をして日本牽制に出でしめることが最上の策である  
日本は近くソ聯と締結せる中立條約を廢棄しシベリア東部よりソ聯を攻撃せん、日本の反ソ派及親獨派は近く共同の要求を以て政府に北進を促し南進を止めん、獨軍が現段階の戰爭中に於て速かに勝利を獲る如くは日本は近く東方より進攻を開始せん、但し獨のソ聯攻撃は近衛内閣の意を引回せり、日ソ不可侵條約は一九三九年の獨ソ不可侵條約が平沼内閣を顧慮せると同様近衛内閣を顧慮せん。

△大公報 六月二十四日

「日本は如何」の要點は(1)日本は軍需資源を求め南進せんせざるが獨ソ戰により北進も濃厚なれり但し南北並進は力許さず、又南進を捨て北進するは慾望が之を許さず同時に獨の對ソ攻撃も傍觀、棧を失し獨に對しては更に信を失ふ。(2)日本は一時彷徨動搖するも結局は獨に追隨せん。(3)近衛内閣は指導力に缺け對米對ソ方針も獨のため妨げられ此次の獨の對ソ攻撃に關しても事前何等之を知らせず故に平沼内閣の如く崩潰せん新内閣は當然親獨ならんも、英、ソの聯合ならば聯合軍の形勢有利となり更に長期の觀望をなさん。(4)中國が反侵略戰線に希望せる所は已に實現し極東に於ては日本最後の致命的打撃とならん。

△大美晚報 六月二十三日

獨逸開戦が極東に及ぼす影響は邊に斷言出來ないが差當り極東は大戦の禍から暫く免れ得るのではあるまいか、日本の三國同盟の義務も日本は「獨逸が第三國の攻撃を受けた場合」援助するといふのであるから獨逸今度の對ソ宣戦は「獨逸が他から攻撃された」とは見られない。尤も世界政治家の一字一句に對する解釋は固より常人のそれとは異なるが日本はソ聯と協定成立の今日蘇の急に乘じて武を逞しふすることもあるまい。

△中美日報 六月二十五日

(重慶二十五日發UP電)掃蕩報によれば「權威筋は日本の對支戦は失敗せり。英國又已に星港の防備を完成し日本は南進の機會を失へり。之がため種々の困難を生じ對ソ聯進撃により解決せん」とあり、日本の唯一の出路は當然ソ聯を犠牲とするに在りと語れり。

△中美日報 六月二十五日

(重慶二十五日發UP電)某方面の消息によれば中國官邊は日本は可及的速かに樺太、浦鹽及び沿海洲を攻撃し、ソ聯の日本に對する多年の脅威を除かん」と計畫しありと信じをれり、但し東京方面は此の計畫に關し未だ完全に決定せず。

△チャイナ・プレス 六月二十三日

獨逸の對ソ宣戦報せらるるや日本は愕然として色を失ひたるが、今日、日本程其の歸趨に迷ひある國は他に之を見ず、如何になすべきやに迷ふは當然なり。獨逸と防共協定を結び

たる日本は唯々諾々としてヒットラーの言に従ひ、たゞ防共あるのみと思ひ込みありたるに、案に相違して一九三九年獨ソ不可侵條約により大いに迷はされたり、松岡が渡歐してソ聯と不可侵條約を結びたる日本は、ソ聯が從來考へられたるが如き不倶戴天の敵に非ざると必要以上の友好關係に入りたり、又一方日本は三國同盟により獨逸と最も親しき友邦と考へありたるにも不拘、事前に獨逸より對ソ宣戦に關し何等の通告なかりし事及び松岡訪歐の際ヒットラーが獨ソ兩國の緊張せる關係の片鱗さへも現はさざりし事は大なる背信行爲と云ふべく、若し斯かる事實の存在を知らば日本は斯く程ソ聯との友好關係に深入りせざりしならん。一方ソ聯は斯かる獨ソ兩國の緊張により日本に不可侵條約を與へて喜ばしめ却つて極東方面を安全にせしめんとする深き策謀より出でたるものなり。從來ソ聯が拒みて相手とせざりし條約を今回は如何にソ聯が熱烈に望みたるか、思ひ半ばに過ぐるものあり、松岡こそ列強の犠牲となりたるものと云ふべく、恰も田舎者が都に出て苦もなく誤魔化されたるに等し、今後の日本國內の混亂を見物なり。

△イヴニング・ポスト 六月二十三日

日本は少くとも茲暫くは戦争の脅威より免れたりと云ふべし、日本は三國同盟とソ聯の不可侵條約の兩者の間に在りて其の去就に迷ひ當分は靜觀主義を以て臨むべく、又ソ聯の對支援助の中絶を以て快哉を時ならん。しかし之の意味する所のものは日本の南方發展の

夢が見事に幻滅となりたることなり。

△上海ザーリア紙(露字) 六月二十三日

この際問題となるは日本の立場なるが、日本は至つて漠然たるものなり。日本はソ聯と不可侵條約を締結したりとは云へ又假令獨逸が勝利を得るとしても東亞に於ける宿望は之を放棄せざるべし。

△上海タイムズ 六月二十三日

極東に如何に影響するや俄に豫斷するは許されざるも、日本は相當窮地にあるは事實ならん。獨逸は日本に積極的協力は求めざるも勝利を得たる曉には相當日本壓迫の舉に出ざるべし。

△上海テレグラフ紙 六月二十二日

(東京二十二日UP電) 獨ソ開戦の報は日本に大衝戦を與へあり、政府は大本營と本廿三日朝日本の立場に關し協議する筈なるが、各方面の意見を綜合せば左の如し「日本は三國同盟及びソ聯との不可侵條約の間に立ち複雑なる状態にあり、従つて靜觀主義を以て臨むべし、又日本は不可侵條約の結果親ソ的雰圍氣にあるを以てドイツより漸次離れ行くべし、又日本は米國との國交調整に乗出し同時に日本は時機を見て蘭印との會商に乗出すべし」



外國宣傳情報第四十六號

昭・一六・七・三情報局

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的なる報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎英米系の日本觀測

英米系電臺其他による日本は三國同盟、日ソ中立條約の間に立ち複雑な状態にあつて、暫くは靜觀主義を採り、あらゆる機會を利用すべしと觀測しあり。

△大美晚報電臺(UP電) 六月二十三日 北京語放送

(東京二十二日發) 日本外務省半官機關紙と認めらるるタイムズ・アドバタイザは「日本は獨蘇に對する條約に等しく友誼態度を示さん、即ち國策決定迄中立を保持すべし」と報じあり。信ずべき獨人筋よりの報道に依れば「獨逸は日本に對し獨蘇戰爭に兩國條約の